

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2791600188		
法人名	アール・オー・エス西日本株式会社		
事業所名	グループホーム寿		
所在地	大阪府吹田市寿町2丁目26-9		
自己評価作成日	平成 29年 9月 10日	評価結果市町村受理日	平成 30年 1月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JirgvsosCd=2791600188-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 29年 11月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2か月に1回、運営推進会議を開催し、ご家族や地域の方との交流、情報交換が出来るようになりました。クリスマス会や食事バイキング等の行事には、ご家族や地域の方にも参加して頂き、入居者様や職員も共に楽しんでます。地域密着型施設としての役割を担って頂けるよう今後も活動を続けていきたいと思ひます。少ない人員の中でも職員が助け合いながら業務を行っています。忙しい中でも「一つ一つの介助を丁寧に」を目標に掲げ入居者様が安心して生活を送れる環境作り、心地良く感じられる接遇マナーを身につけられるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者介護、障がい者福祉等の事業を多角的に展開している株式会社運営する複合施設として、ケアプランセンター、放課後等デイサービスを併設している2ユニットのグループホームです。開設して7年目を迎えます。すぐ近くに広い公園のある閑静な住宅街に立地しています。施設長は、利用者が安心して過ごせる生活に繋がる運営に努めています。管理者は職員が何でも相談や話が日常に出来るような雰囲気作りを心がけています。職員はスタッフ間の気配りを大事にしなが、チームワークを円滑にして利用者の暮らしを支援しています。また、利用者とコミュニケーションを図り、利用者に笑顔になって欲しい、笑ってもらいたいと、利用者一人ひとりの気持ちに配慮しながら、きめ細やかな気配りで暮らしにより添っていくことを大事にしたいと考えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一つ一つの介助を丁寧に入居者様が安心感を得られる雰囲気作り、心地良く生活できる環境作りを行う」と目的を決め、ケアや関わりに反映できるようスタッフ個人が能力向上のため、個人目標を立てて実践している。	ホームの名前から「ことぶき」を合言葉に頭文字に入れ、「コミュニケーションを大切に、ともに喜び分かち合う、ぶんとん役割わきあいあい、きんじょ付き合い助け合い」を理念としています。更に周知と共有を図るために、近々理念の看板を作り、掲示する予定です。	理念は、職員はもとより、家族や来訪者の目にすぐに触れる場所に掲示し、理解や共有が更に充実できるようにされてはいかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議が2カ月に1回、定期開催出来るようになり、地域の方との交流や情報交換が出来るようになった。入居者様が地域行事に参加したり、地域の方が寿の行事に参加して頂く機会も増えている。	地域の情報は、地区福祉委員や家族が、運営推進会議に参加しており、情報交換を行っています。近くに住む町会長から、地域の盆踊り、敬老祝賀会等の誘いを受け参加しています。管理者は、地域住民にチラシの配布や声かけをし、施設の行事に参加してもらうことで利用者との交流の場にできたらと考えています。職員は利用者の重度化に伴い、散歩する機会ことが少なくなり、地域住民との日常的な交流が少なくなっていると感じています。利用者が施設から1人で外出された時に近くのコンビニの店員の協力があり、職員は地域に支えられていることを実感しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター研修を通じて一般の方の見学を受け入れている。昨年からの実績はなかったが引き続き情報発信に努めていく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回実施。地域包括の職員1名、自治会長や福祉推進委員、ご家族に参加して頂き、入居者様の様子、事故報告や行事報告を行い、ご意見を頂いている。	運営推進会議は、地区福祉委員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族等の参加で開催しています。会議では、行事、利用者の様子や事故の報告を行っています。ホームの取り組みや職員研修についても説明と報告を行い、質疑応答や地域からの情報提供を得ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域での会議、会合についての参加は人員不足もあり中々参加出来ない。運営推進会議を通して地域包括や福祉委員の方々に事業所の実情やケアサービスの取り組み等を伝え、協力関係は築けている。	市の担当課には不明点や困難な事柄などの相談をしています。事故報告も速やかに提出して助言を得ています。市のグループホーム連絡会に出席している市の担当者と情報交換をして連携を深めるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に関しては正しく理解できるよう、全職員対象として本社研修や勉強会に参加している。玄関の施錠に関してはスタッフ見守りのもと、日中に開放できる時間を増やすようにしている。</p>	<p>身体拘束廃止や虐待・人権に関する研修を行い、職員は拘束しないケアについて理解しています。研修に参加できなかった職員へは資料を渡し、会議で研修内容を伝えています。ユニット入口は安全を重視し施錠していますが、見守りができるときには開放しています。日中に開放できる時間を増やすよう努めています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>上記同様、全職員対象で本社研修や勉強会に参加している。 入居者様に接する態度は言葉づかいからと接遇面での改善に力を入れてきました。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、ご入居中の方で後見人制度利用の方もおられ、今後も活用できるよう制度の理解と関係者の方との話し合いを深めていく。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、重要事項説明書をもとに十分に説明を行い、疑問点があれば聞き取り回答する事で理解、納得を頂いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、ご家族の意見や要望をお聞きし、反映させている。また、面会時にもご意見を頂けるよう心掛けています。	管理者は家族の来訪時にできるだけ声かけをし、希望や要望等を聞く機会にしています。家族の希望で行事計画表を各部屋に掲示したり、家族に送付する等改善した例があります。運営推進会議には数名の家族が参加しており、意見や要望を聞くことができます。毎月の書類送付時に、利用者の日々の暮らしぶりが分かるよう写真や施設の新聞を同封し家族へ伝えていきます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフが困っている事ややりたい事(意見、提案)を普段の会話の中から聞き取っている。また、会議前アンケートに記入してもらい、月一回の全体会議で取り上げ話し合っている。反映できる事はすぐに実行している。	職員は、毎月の全体会議で意見を出し合う他、行事・感染・レクリエーション・接遇等の委員会の中でも提案することができます。管理者は、職員が相談や意見を表出できる雰囲気作りを心がけ、職員の話をいつでも聞くようにして運営に反映するようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者は給与、昇給に反映されている。昨年から取り組んでいた業務のスリム化、見える化の効果が出て、不要な残業も減少している。職員個々の努力や実績が反映されるよう努めると共に研修や勉強会を通じて向上心を持ってもらえる機会を増やしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内外の研修は提示し参加を促している。 新人スタッフの研修では指導チェック表や研修報告書を活用し管理者や指導スタッフが協力して指導を行っている。また、統一したケアを提供できるようマニュアル作りに力を入れている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	情報は発信し参加のできる機会は設けているが勤務状況から少ない人数しか参加出来ていない。サービスの質の向上に向けて取り組んで行く。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	事前面談を行う事でご本人が困っている事、不安な事、要望を聞き取り入居時の不安軽減に努めている。また全職員に周知し、新規入居の方に対しては特に気を配っている。		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	事前面談を行い、ご家族の思いや要望、不安点等の聞き取りを行い、入居時に不安が軽減できるよう準備している。また入居後はこちらから積極的にアプローチし情報共有することで不安や要望を解決できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回、アセスメントの内容を重視しケアプランを作成。入居後は環境の変化によって現れた新たな課題、問題などを見極め柔軟な対応を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、ご本人の出来る事や可能性を見出し、やりがいを感じてもらいながら共に生活を楽しめるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の近況報告や寿新聞等の配布でこちらから現状を伝えている。ご家族から頂いた情報も共有しご本人の支援に関しては共に考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近郊への散歩や神社への参拝など馴染みの場所に外出する取り組みは行っている。	利用者の馴染みの人や場について、入居時に聞き取った内容や家族に聞いた内容を記録しています。家族だけではなく友人がホームに来訪することもあり、職員は馴染みの関係の継続の為に快く受け入れています。入居後にできた新たな馴染みの関係もいつまでも途切れないよう大切に支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場の雰囲気作り、入居者感のコミュニケーションのきっかけ作り、また橋渡し役になれる様、日頃から心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居等があっても、お見舞いや面会等を行っている。ご家族からの相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	尊厳の気持ちは忘れず生活の様々な場面で意思決定の主が入居者様であるよう努めている。	把握している利用者一人ひとりの生活歴や、日常の関わりの中で知り得た利用者の思いを大切にされた支援をしています。新たな気づきや発見は、ミーティングや申し送り、カンファレンスの中で話し合い、個人申し送りノートに記録して、職員間で情報の共有を図るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、面談でご家族や担当ケアマネジャーから聞き取りを行い生活環境やサービス利用の経過を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の中の変化に気付けるよう観察を行い記録に残している。様子を伺ったり話を聞く事で状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状は定期的にカンファレンスが開けていない為、計画作成担当者が担当。ご本人やご家族、職員、必要な関係者からそれぞれ意見を頂き、現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	介護計画書には入居時のアセスメントと、利用者の居室担当が月に1回行ったアセスメントを反映させています。利用者・家族から思いや希望を聞き取り、カンファレンスで検討して、介護計画を作成しています。モニタリングは3カ月に1回実施しており、包括的自立支援プログラムの様式によるケアチェック表で確認と評価を行い、再アセスメントの必要の有無と介護計画の見直しの検討を行っています。介護計画書は通常概ね6カ月毎の見直しを行い、利用者の状況変化の際には随時の見直しをしています。作成した介護計画は家族の来訪時に説明し、または必要に応じて郵送し、同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを確認し把握するよう全体会議で発信している。今後も個別に添った記録を残していけるよう努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>現状では充分に取り組めているとは言えないが、その時々で柔軟な支援やサービスの多機能化が出来る様取り組んでいきたい。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>理美容院、病院、消防などの協力は継続して行えている。音楽会やラジオ体操、敬老会等 地域行事への参加を行っている。今後も積極的に地域行事への参加が出来る様努めていきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人のこれまでのかかりつけ医とホームドクターの間の情報交換、共有は出来ている。今後も安心して往診や受診をして頂けるよう支援していく。</p>	<p>入居前からのかかりつけの医療機関への受診は、希望に沿って選択ができるようにしています。協力医療機関の往診が月に2回あり、週に1回の訪問看護師の訪問で、利用者の状態に合わせて健康チェックを受けており、24時間のオンコールが可能です。訪問歯科も2週間に1回訪問があり、必要に応じて口腔ケアを受けることができ、健康管理記録簿で情報を共有しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>体調の変化や気づきを訪問看護師に伝えられる体制は取っている。また、訪問日以外でもクリニックに連絡を取り適切な対応が出来る様、心掛けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院のソーシャルワーカーをはじめ入院中の状況確認や退院に向けての退院前カンファレンス等を行い情報交換を行っている。今後も病院やご家族、施設間の連絡をスムーズに行えるよう関係作りに努めていく。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りケアに関してはご家族、医療機関、施設との間でカンファレンスを行いご家族やご本人の要望に沿って身体的、精神的な苦痛を緩和できるよう取り組んでいる。また、看取りケアに関わる中で得た経験を会議の場で話し合い個々の思いや反省点、課題を次に活かせるよう努めている。</p>	<p>重度化や終末期の方針について、利用者・家族、医療機関、施設で話し合い、状況に応じ「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って看取りを行っています。</p> <p>職員は看取りケアでの経験を会議で話し合い、貴重な経験を共有しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時のマニュアルを見直し新しく作成し対応できるようにしている。応急手当や初期対応の訓練については研修等を通じて学んでいる。またホームドクターと密に連携を取り指示、指導を受けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域、消防署と連携し災害時の訓練、また指導は受けている。新人職員にも指導がしっかり行えるよう心掛けていく。</p>	<p>災害発生時のマニュアルを策定し、年2回避難訓練をしています。1回は消防署の指導のもと実施しています。消火器訓練には利用者も参加しています。非常災害時の水や食品等の備蓄はユニット毎に準備しています。最近あった地域一帯の停電時には、備蓄を活用し食事をすることができました。</p>	<p>災害時備蓄について、量的に適切であるかの確認と、数量や消費期限の管理のために一覧表を作成することが望まれます。人手の少なくなる夜間に備え、夜間想定での訓練を行うことや、地域の協力体制について検討することが望まれます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさや尊厳を大切にし、分かりやすく丁寧な対応、言葉かけを常に意識するよう全スタッフに発信し、取り組むよう心掛けている。	職員は、常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応でゆったりとした話し方をしています。同じ言葉遣いでもトーンや表情の違い、利用者一人ひとりの返答能力に応じた質問方法でさりげない介助を行い、優しい雰囲気です。管理者は、接遇マニュアルを通して職員に周知を図り、コミュニケーションスキルアップ研修でアサーション技法(自分と相手を大切に自己表現技法)を学び、日々のケアで実践に活かしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面での選択、意思決定がご本人主体であるよう関わり方、声のかけ方に気を付けている。状況によっては代弁をすることもあるが、その際もスタッフの主観にならないよう注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活という施設の都合上、食事や入浴など決まった時間になりがちだが、声のかけ方や関わり方でそう感じないように今後も工夫していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選ぶところから働きかけ、スタッフが選ぶときでもTPOに合わせた衣服を着用して頂いています。 整容、(爪切り・髭剃り)も気付いた都度、行うよう心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、毎日は出来ていないが準備や後片付け等一緒に行って頂けるよう働きかけている。手作りのおやつ作りや、お好み焼き作り等のレクが好評である為、今後も継続していく。	主食のご飯はホームで炊いて炊き立てが食べられるようにしています。副食は委託業者よりチルド状態で運ばれ、ホームで温めて盛り付けをしています。職員は、日々の会話の中から利用者の嗜好や希望を聞き取り、お好み焼き、ホットケーキ、クリスマスケーキ等を手作りして楽しみを持てるように工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の少ない方には高カロリー食品の使用。むせ込みのある方にはとろみ剤を使用している。お茶を基本提供しているが、好みに合わせコーヒー、紅茶、ジュース類も常に準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケアを実施している。歯科往診時に指示、指導してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>定時の声掛け、トイレ誘導以外にも個別の排泄パターンを把握し回数増や清潔保持の為、適宜パット交換を行っている。現状、オムツ使用者はゼロである。</p>	<p>職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するために、排泄チェック表に細かく記録しています。できる限りトイレでの排泄を基本にしています。職員は利用者に合わせた排泄のタイミングを計り、さりげない声かけでトイレ誘導を行うなどして、可能な限り自立度が下がらないように介助しています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>日課の体操などを通じて運動不足の解消、また下剤だけに頼らず乳製品を使用して自然に排泄できるよう試みている。訪問看護で看護師より指示、指導してもらっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は固定となっているが、体調不良や拒否があった時は無理にお誘いせず、曜日や時間帯を変更し臨機応変に対応している。同姓介護にも配慮している。	入浴は行事予定などを考慮して、曜日や時間帯を決めることで職員の配置をし、利用者の清潔保持と気持ち良さを第一に支援できるようにと考えています。当日の体調や、入浴拒否等の利用者の状況を勘案しながら、利用者の思いや希望を尊重して、利用者一人ひとりに合せた対応をしています。できるだけ声かけやタイミングを計って入浴を促す工夫をしています。利用者が入浴を好まないなどで入浴の機会が少なくなりそうな時にも、必要に応じてシャワー浴、清拭、足浴などその時々状況に合わせて対応します。また、ゆず湯や菖蒲湯などで季節を感じられるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜、不眠で休めない方は楽に座れるソファで過ごして頂いている。また、午後にお昼寝の時間をとり休息していただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の方と連携を取り薬の効能や副作用の情報は頂いている。新しく処方があった場合は記録に残し申し送りでも伝え状態観察に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般にその方の能力、意欲に合わせて役割をもって頂き、出来る限り一緒に家事を行っている。自発的に「やりますよ」と言う声も聞かれ男性の方でも洗濯物たたみを手伝っていただくこともある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	徒歩圏内に中之島公園に春は桜、秋は紅葉と散歩コースとして利用している。また、車を使った外出では浜屋敷、高浜神社など季節行事で外出しました。	ホームを出るとすぐに大きな公園があり、季節を感じながら散歩ができます。ホームの中だけで過ごさずに、積極的に出かけられたらと職員は考えています。真夏の暑さや、梅雨の天候、冬の寒さで、利用者が出かける機会が少なくなっていますが、週に1度は近くの公園に散歩に出かけ、天気の良い穏やかな日には、外気浴を取り入れています。月に1回はホームの行事として花見等に車で出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 小職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族が行っている。お小遣い程度の金額を所持している方も数名おられ、好みのおやつ等、希望時に購入していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族、知人、友人からのお手紙は届くが、こちらからは出せていない。季節の年賀状や暑中見舞い等にも取り組んでいきたい。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前年度はリビングのカーテンが分厚い生地の物一枚だけで日中、遮光の為に閉めると空間が暗くなっていたが、レースのカーテンを取りつけ、天気の良い時南向きで日当たりも良く明るい空間となった。気候のよい時期は窓を空け自然の風を入れている等の工夫をしている。	リビングは広く明るく、日中は利用者が居室から集い、思い思いに過ごしています。自宅のような安らぎとくつろぎの中で、ラジオ体操やレクリエーションに参加したり、安心できる暖かみのある居心地の良さに、配置されたソファで気持ちよさそうにうとうとしている微笑ましい様子も伺え、家庭的な雰囲気です。壁には行事や外出時の利用者の楽しそうな写真が掲示され、来訪したボランティアと一緒に書いた書道の作品や、折り紙の作品が飾られて、利用者の日常の楽しみも併せて居心地良く過ごせる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段より、入居者間の人間関係や良好なコミュニケーションがとれるよう座席の変更には配慮している。個室でのお一人の時間も大切にもらえるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活で使用されていた馴染みの物は引き続き使用させていただき精神的に安心されるよう工夫している。	利用者がグループホームという集団生活の中で、その人らしく過ごすことができ、安心できる場としての居室の設えになるよう、長年使いなれた愛着のある調度品や、テレビ、家族の写真などを持ち込み、自宅の自分の部屋のように利用者一人ひとりが安らげる居室づくりをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	業務改善の一つとして「不要な物は置かない」「整理整頓」を心掛け、入居者様の安全も確保しながら、動線もスムーズになり安心して過ごせる空間を作っている。		